



関西 季節の旬

大阪取引所
代表取締役社長

山道 裕己

大阪梅田近くに転居して8年目を迎えた。関西には、小中学校時代宝塚に5年、大学時代京都に4年住んだが、大阪市内は初めて。普段は東京との間を行き来する生活ではあるが、週末には大阪を拠点に周辺地域を散策する事も多く、この地域の魅力の一端を垣間見ることができた。梅田近辺からであれば京都、奈良、神戸の主要な駅には1時間以内に到達することが可能なので、場所や目的地を限定すれば観光地の多くは日帰り圏内となる。

春夏秋冬、それぞれの季節に合わせて目的地を設定する。春であれば大阪市内にも大阪城公園や、大川沿いの桜並木、そして有名な造幣局の“通り抜け”等の桜の名所が多数あるが、京都には金閣寺裏の山一つが各種の桜で覆われた原谷苑、仁和寺の御室桜、上賀茂神社や円山公園のしだれ桜、秀吉の花見で有名な醍醐寺等々。因みに原谷苑は私が大学生の頃には知られていなかったが、今では大変な人気スポットとなっている。桜の開花状況に合わせて料金を設定しており、満開時は1,500円。少々足を伸ばして奈良の吉野山も日帰り圏である。新緑の季節、箕面の滝周辺や室生寺の若葉の緑が目にも染みる程鮮やかなのは、冬の寒さが厳しいためであろうか。人の少ない穴場スポットである。夏は地域全体が無風状態となつてうだる様な暑さが続くが、京都貴船の川床では、川

面を伝って来る涼風がまるで天然のエアコンの様に感じる。また、高野山も標高が1,000メートル弱で、朝夕はかなり涼しい。紅葉の季節



も京都の永観堂や神護寺周辺、奈良の長谷寺等名所が多いが、桜の季節にも増して混雑する印象である。今年はどうであろうか。冬の魅力はやはり雪である。週末に都合よく降雪するという幸運には中々恵まれないが、一度だけ朝のニュースで積雪を確認後、寒がる家内を引っ張って金閣寺に行った事がある。屋根に白雪を抱いた舍利殿は側面の金色との対比が鮮明で、水面に映る姿も美しく、大変印象深かった。また、近隣の龍安寺の石庭も、雪原に岩山が飛び出しているといった風情で、普段とは趣が異なっていた。

このように関西には季節毎に訪れるべき旬の場所がある。同様に、四季折々の旬の食材も数多いが、紙幅も尽きてきたので筆を置くこととする。

新型コロナの影響で不自由な日々が続いている。一日も早くこの状況から脱する事ができるようお願いしてやまない。